

令和8年2月25日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立田道小学校
校長 塚本 哲

令和7年度 目黒区立田道小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年 6月21日(土) 午前9時00分～午前10時00分
 - ・学校経営方針、主な学校行事について
 - ・学校公開授業参観について
- (2) 第2回実施日時 令和7年12月20日(土) 午前8時30分～午前8時50分
 - ・これまでの学校の様子について
 - ・学習発表会について
- (3) 第3回実施日時 令和8年 2月14日(土) 午前8時45分～午前9時20分
 - ・四者による学校評価のためのアンケート結果について
 - ・次年度に向けて

2 参加者 学校評議員5名、校長、副校長

3 評価の結果等 ※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ⊙(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎教育活動全体に係る肯定的な評価について、教職員は100%に達し、保護者・低学年児童は前年度より約8ポイント上昇した。 このことから学校全体に対する評価は良好であり、「田道12の取組」の成果であると捉えている。	・今年度に引き続き、本校の特色ある取組を教育課程に確実に位置付け、学校と保護者・地域がそれぞれの教育力を十分発揮することで、児童の資質・能力の育成を図っていく。 なお、次年度は特色ある取組を1つ増やし、「田道13の取組」の実現を図る。	・令和7年度の学校評価結果を真摯に受け止め、令和8年度は重点的な取組を1つ増やすなどの改善を図っているところがよい。 ・今後も保護者の評価と教職員の評価の差異を分析した上で、家庭・地域との連携を強化してほしい。 ・直接的な関わり合いや多様な体験活動等を通して、児童のオーセンティックな「学び」の実現を期待する。

評価項目	◎（成果）、●（課題）、 ◎（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
Ⅱ 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎教育目標に係る保護者の肯定的な評価は昨年度よりさらに約2ポイント上昇した。このことから、教育目標に対する評価は良好であり、学校だよりや保護者連絡システムによる発信を通して、学校の取組等への理解を得ることができていると捉えている。	・本校では「自分の生き方を考える子どもの育成」を目指している。引き続き、児童が自己の興味・関心に基づき、活動内容を設定・探究する時間である「田Qタイム」を年間20単位位置付け、自らの人生を舵取りすることができる力を身に付ける。	・次年度も児童が社会で活躍する未来を見据えた質の高い、深い学びを実現することにより資質・能力の育成に努めてほしい。 ・文部科学省教育課程企画特別部会「論点整理」で示されているように、本校の教育活動を通して、自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手の育成を期待する。
Ⅲ 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	●心の教育に係る肯定的な評価について、低学年児童・高学年児童は90%以上を維持している。一方で、保護者については昨年度より約10ポイント下降したことから、道徳的実践のさらなる充実を図る必要がある。	・これまで自分も相手も大切にする視点を土台とし、ペア清掃や縦割り班等の異学年交流を計画的に取り入れた。 次年度もこれらの取組を継続させ、優しさや思いやりの心の醸成に努める。	・児童が学校のみならず、家庭・地域においても安心して過ごせるよう、心の安定を図ることが大切である。 ・本校で大切にしている異学年交流や学校行事は、児童一人ひとりの思いやりの心を醸成する取組である。今後も道徳科の授業のみならず、教育活動全体の充実に努めてほしい。

評価項目	◎ (成果)、● (課題)、 ◎ (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎学習指導等に係る肯定的な評価について、教職員は100%、また、低学年児童・高学年児童はともに90%以上に達した。現に、令和7年度の区学力調査では、知識・技能の定着が一定程度図られていることが確認できた。一方、保護者は前年度より約7ポイント上昇したものの、90%には達していない。このことから、引き続き、授業改善を図る必要があると捉えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、単元デザインや40分授業デザインの中で「Dendo 学ぶ10の姿(学習行動)」を引き出す場面及びその行動を振り返る場面を意図的・継続的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 ・児童が自分に合った学習方法を選択できるよう「学びのプロセス」、「思考のスキル」、「デジタルリテラシー」¹に係る能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を表現する活動や、探究的な要素を持つ学習活動を単元デザインや40分授業デザインの中に意図的に取り入れ、児童が、直面したことのない課題に対しても解決することができるようにしてほしい。 ・未知の課題に対して、まず考えてみたり、行動しようとしたりする児童の姿を認め、価値付けてほしい。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎保護者・児童・教職員の体育・健康教育に係る肯定的な評価は、昨年度より改善しており、特に、保護者は約10ポイント上昇したことから、体育・健康教育に対する評価は良好である。これは「田道12の取組」に体力アップタイムを位置付け、年間を通して取り組んだ成果であると捉えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度末に新たな取組として、休み時間を活用した「田道フィジカルタイム」を実施した。この取組を次年度も継続させることで、運動に親しみ、体力向上、健康の促進につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力は、身体面や精神面の充実に深い関わりがあり、児童の人生を支える上で重要な役割を担っている。 ・本校の教員が主体的に新たな取組として「田道フィジカルタイム」を立案し、実施したことは素晴らしいことである。これらの取組を次年度も継続させ、体力向上と健康促進を図ることを期待する。

¹ 「学びのプロセス」、「思考のスキル」、「デジタルリテラシー」…「学びのプロセス」とは情報収集・整理分析・まとめ・発表、「思考のスキル」とは比較すること、分類すること等、「デジタルリテラシー」とは個別・協働で行う操作能力を示している。

評価項目	◎（成果）、●（課題）、 ◎（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
<p>VI 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて</p>	<p>◎特別活動に係る肯定的な評価について、児童は90%以上を維持し、さらに保護者の評価は前年度より4.5ポイント上昇したことから、特別活動に対する評価は概ね良好である。しかし、心の教育の充実を次年度の課題と捉えていることから、特別活動のさらなる充実を図る。</p>	<p>・同じ地域の異年齢の子どもたちが集う場所としての公立学校ならではのよさを生かす。</p> <p>具体的には、今年度、取り組んできた縦割り班活動、ペア清掃、ファミリーグループワークを継続させ、人と関わる喜びや自信を獲得できる経験を積ませる。</p>	<p>・特別活動を通して、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る経験を積み重ねてほしい。</p> <p>特に、本校で大切にしている異学年交流は児童の社会性が育つ価値ある取組である。次年度以降も本校の特色として続けていただきたい。</p>
<p>VII 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>●生活指導に係る肯定的な評価について、保護者は昨年度と同等であったが、児童は約3ポイント下降したことから、子どもが自分で考えて適切な行動がとれるようにすることが課題である。</p>	<p>・学校のきまりに関し、代表委員による企画を通して、児童が意見を表明する機会を設け、見直すべき点については代表委員会を中心に協議を行い、改善を図る。</p>	<p>・全児童にとって、学校が安心して通える魅力的な場所となるよう、学校・保護者・地域が一丸となって取り組む必要がある。</p> <p>特に、不登校児童に対しては、その児童がどのような状態にあり、どのような支援を要しているのかを見極め、適切な支援や働きかけに努めてほしい。</p>

評価項目	◎（成果）、●（課題）、 ●（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
<p><防災教育・安全指導></p> <p>・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎防災教育・安全指導に係る肯定的な評価について、児童・保護者は約95%、教職員は100%と高い評価を維持することができた。</p> <p>現に、避難訓練では全児童一人ひとりが高い意識をもって取り組むことができしており、その姿と学校評価結果に乖離はない。目黒警察署や企業と連携しながら取り組んだ成果であると捉えている。</p>	<p>・毎月、避難訓練及び安全指導を児童にねらいを示しながら、確実に実施するとともに、引き続き、目黒警察署職員や企業と連携した取組を行う。</p>	<p>・児童一人ひとりが安全・安心な社会づくりに主体的に参加し、貢献できるようになってほしい。</p> <p>引き続き、避難訓練及び安全指導を通して、児童が事故や災害に係る基礎的な資質・能力を身に付けることを期待している。</p>
<p><幼・保・小・中連携></p> <p>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</p> <p>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</p>	<p>●幼・保・小・中連携に係る肯定的な回答について、教職員は昨年度より約8ポイント上昇し、90%に達したものの、保護者は昨年度より約5ポイント下降した。このことから、連携の趣旨や内容を説明し、保護者の理解を深めることが課題である。</p>	<p>・特に、幼・保・小連携について、低学年段階では幼児期の学びの特性を意識した視点を多く取り入れる。特に、前期の教育活動の中で、遊びを通じて思考を巡らせ、想像力を発揮しながら様々な対象と主体的に関わる中で、総合的に学べるようにする。保護者に対しても取組の趣旨や内容を発信していく。</p>	<p>・児童の社会性をはぐくむために、異年齢交流は非常に重要である。</p> <p>・幼・保・小連携における具体的な取組として、幼稚園・保育園との交流活動のみならず、園の運動会を本校で実施するなど、学校施設の貸出も有効であると考えます。</p> <p>園児が小学校生活をイメージして、4月を迎えることができるとよい。</p>

評価項目	◎（成果）、●（課題）、 ◎（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
Ⅷ 情報の発信 ・学校の情報発信の充実について	◎情報発信に係る肯定的な評価の割合は、教職意は95%に達した。また、保護者は80%を維持できていることから、概ね良好であると捉えている。 引き続き、情報を受信する側の立場に立った発信時期、方法、内容の工夫が課題である。	・学校の取組や児童の様子が適時適切に伝わるよう、保護者連絡システムで配信する情報量や配信日を考慮しながら、今年度の取組を継続していく。	・積極的な情報発信は非常に大切である。 ・学校は保護者に対し、学校公開日のみならず、日常的に学校を訪れ、児童の様子を見てもよいことを発信していくとよい。保護者の興味・関心がより高まると考える。
Ⅸ 教員の人材育成について ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	●教員の人材育成に係る教職員の肯定的な評価の割合は、昨年度(100%)より、4ポイント下降した。 多岐にわたる職務に対応できるよう、計画的に実施する必要がある。	・「40分授業午前5時間制」で生み出した学校裁量の時間の一部を有効に活用できるよう、年間計画を見直すとともに、外部講師による研修や教職員同士で行う校内OJT等を通して幅広い内容を扱い、人材育成を図る。	・今後も学校管理職のリーダーシップを発揮し、組織力の向上を期待している。
Ⅹ 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎月当たりの時間外在校等時間は改善傾向にあるものの、教員の人材育成に係る教職員の肯定的な評価の割合は、昨年度と同程度であった。 引き続き、組織的に働き方改革を推進する。	・教員の休憩時間の意識の定着を図る。また、教職員用の週時程に、「ミーティング」や「カリキュラムデザイン(教材研究)」の時間を位置付け、業務の効率化・最適化を図る。	・教員が休憩時間を意識できるよう、チャイムの音を変えていることについて、よい取組である。 ・教員の働き方改革の目的は、教職人生を豊かにし、自己の人間性や創造性を高め、効果的な教育活動を行うことである。本校の教育活動が多様な児童の「深い学び」につながることを期待する。

評価項目	◎（成果）、●（課題）、 ◎（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
XI サービス事故の防止について ・サービス事故防止に向けた取組などについて	◎サービス事故防止に係る教職員の肯定的な評価は100%であるが、サービス事故は絶対に起こしてはいけないという認識の下、今後も定期的にサービス事故防止に係る教職員の意識のネジを締め直す必要がある。	・引き続き、サービス事故防止研修を全教職員が受講するとともに、サービス事故事例を活用しながら自分事として考えさせることで、サービス事故ゼロの実現を図る。	・教職員の言動は、児童の成長に大きな影響を与える。 このことを教職員は十分理解し、引き続き、サービスの厳正に努めてほしい。